

東北文教大学・東北文教大学短期大学部 図書館報

発行 東北文教大学・東北文教大学短期大学部附属図書館 〒990-2316 山形市片谷地515 ☎023-688-7544

目次

●大学教育改革と図書館	1
●大学図書館の役割	3
●教員の本棚から	3
●私のおすすめ本	3
●平成29年度 図書館報告	4
●データベースを利用しよう	4

大学教育改革と図書館

人間科学部学部長 大 桃 伸 一

＜大学教育の質的転換＞

文部科学大臣の諮問機関である中央教育審議会は2012年8月、「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」という答申を出した。答申では、かつて企業は「大学教育に多くを期待しておらず、入社後の社内教育と実務上の経験や実践で人材を伸ばせばよい」と認識していたところがあった。しかし、社会の大きな構造的変化に直面し予測困難な今日、産業界や地域社会は、大学に未来を切り拓く「有為な人材の育成」を切望している。「次代を生き抜く力を学生が確実に身に付けるための大学教育改革が、学生の人生と我が国の未来を確固たるものにするための根幹」であるとしている。そして、これからの時代において高等教育で培うことが求められる「学士力」として、次のものをあげている。

- 知識や技能を活用して複雑な事柄を問題として理解し、答えのない問題に解を見出していくための批判的、合理的な思考力をはじめとする認知的能力
 - 人間として自らの責務を果たし、他者に配慮しながらチームワークやリーダーシップを発揮して社会的責任を担い、倫理的、社会的能力
 - 総合的かつ持続的な学修経験に基づく創造力と構想力
 - 想定外の困難に際して的確な判断をするための基盤となる教養、知識、経験
- こうした「学士力」を身に付けるためには、大学教育

の質的転換が必要であるとしたうえで、答申では次のように述べている。

「従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見・解を見いだしていく能動的学修（アクティブ・ラーニング）への質的転換が必要である。」

そして、答申では、こうした大学教育の質的転換への「始点」として、学生の学修時間の確保に着目している。よく知られているように、大学教育は単位制をとり、1単位は事前の学修、授業の受講、事後の学修からなる45時間の学修を要する。すなわち、講義の場合、15時間を教室で行い、30時間は教室外の事前事後の学修が必要ということである。この単位制度は、学生の学びは主体的に行われるべきであるという大学教育の本質からきている。答申によれば、「大学の授業」と「大学の授業の予習・復習」を合わせた一日当たりのわが国の学生の学修時間の平均は、アメリカの大学生と比べてきわめて短い。まず、シラバスに授業の事前事後の具体的な学修内容を明示し、1単位当たりの学修時間を確保することが必要なのである。

また、答申は、大学教育の質的転換のためには、「質を伴った学修時間の実質的な増加・確保が不可欠である」としている。これは、学生に「授業の予習・復習をしろ」と言うだけでは実現しない。学生が主体的に学修できる環境をつくり出していくことが必要で

ある。そして、「学生の主体的・対話的で深い学び」を保証し、大学教育の質的転換をはかっていくためには、図書館の果たす役割が大きい。

<図書館の役割>

科学技術・学術審議会は2010年12月、「大学図書館の整備について（審議まとめ）―変革する大学にあつて求められる大学図書館像―」をとりまとめ、そのなかで大学図書館に求められる機能・役割の第一に「学習支援及び教育活動への直接の関与」をあげている。そして、インターネットの普及や大学教育の質的転換の要請のなかで、ラーニング・コモンズ、図書館職員等によるレファレンスサービスや学習支援を、時代の要請に応える方策として示している。審議まとめによれば、「ラーニング・コモンズは、複数の学生が集まって、電子情報資源も印刷物も含めた様々な情報資源から得られる情報を用いて議論を進めていく学習スタイルを可能にする『場』を提供するもの」である。その際、図書館職員等が学生の自学自習を支援することが重要であるばかりでなく、上級生が自らの経験に基づき、下級生を支援する体制をつくっていくことも必要である。審議まとめではまた、情報教育は中学や高校でも行われるようになったが、「大学においてはさらに踏み込んで、大学図書館の利用方法も含めて、情報を探索し、分析・評価し、発信するスキルを一層高める情報リテラシー教育が必要」であるとし、そうした教育は図書館が主体となって取り組むべきであるとしている。

こうしたなかでラーニング・コモンズは、多くの関心を集め、各大学で図書館をはじめとした施設の改修が行われるようになっていった。しかし、ハード面の整備だけが先行し、ソフト面の整備が遅れているという指摘もある。そうしたなかで、東京女子大学の「マイライフ・マイライブラリー」は注目に値する。この事例では、ラーニング・コモンズにふさわしい場として図書館の建物を改修しただけでなく、学生スタッフが学生を支援する学生協働サポート体制、情報リテラシー教育などのソフト面の整備も行い、入館者数が大幅に増加し、学生の評価も高いと報告されている。

私は大学時代、図書館の書架が「閉架式」だったこともあり、利用するのは新聞や雑誌を読んだり、レポートを書いたりする時がほとんどであった。しかし、大学院生になり自由に書庫に入ることができるようになると、図書館のイメージが一変した。最初に書庫に入った時、天井まで届く書架を埋め尽くしている蔵書の数々に圧倒された。当時、「子どもから」を標榜するドイツ改革教育学のリーダーの一人であるG. ケルシェンシュタイナーの労作教育思想の研究をしていたが、ケルシェンシュタイナーの原著の多くがあたかも自分に読んでもらうのを待っているかのように並

んでいた。また、私は、大正自由教育研究のゼミに入っていたが、大正期の子ども中心の教育に関する書物が整理されてびっしりと並んでいて、それらを紐解くとケルシェンシュタイナーのわが国の教育に与えた影響の大きさを自然に知ることができた。大学院生の研究室もあったが、私は書庫によく行くようになり、静寂のなかでカードを取りながら書物を読んでいく時間がとても心地よかった。そして疲れると、広い書庫を歩きながら、古い書物を手に取り、著者の思いや願いについて考えるのが好きであった。レファレンス・コーナーにはドイツ語のできる職員がいて、国内だけでなく海外の研究資料の探索に随分お世話になった。

大学教育の質的転換が求められている今日、ラーニング・コモンズを導入し、学生がワイワイ学修する場を図書館につくることは必要である。しかし、静寂のなかで書物に向かい、思索を深める場も必要である。「静寂とワイワイの両立」がこれからの図書館のキーワードとなると思われる。

<学びの空間の創造>

ラーニング・コモンズの機能は、なにも図書館だけが担うべきものではない。大学教育の質的転換のためには、ラーニング・コモンズ導入を契機とした学修の場を、大学全体の中につくっていくことが必要である。これまで多くの大学は、学生が集まる講義棟とは別に教員の研究室をつくり、授業以外に教員と学生が交流する機会があまりなかった。そうした中で、公立はこだて未来大学の取り組みは注目されている。

公立はこだて未来大学では、「大学全体を学びの場に」することをコンセプトに建物が設計されている。教員の研究室の前に全学生が自由に利用できる「スタジオ」と呼ばれるオープンスペースが広がっている。スタジオは、多くの学生にとって学内で過ごす「中心的な居場所」であり、教員と「自然に出会う」場となっている。このスタジオで学生は、友人と議論しながら学修し、質問があったら何時でも教員のところに相談に行くばかりでなく、教員も積極的に学生と交流し共に学ぶ空間となっている。未来大学では、ライブラリーはオープンスペースと連続しているが、「積極的に静寂を保つ空間」として存在している。

本学では、8号館に学生が自由に利用できるオープンスペースがある。1階の学生ホールは教職実践センターと続きになっており、教員採用試験を目指す学生は何時でも相談に行ける。2階や3階にもオープンスペースがあり、学生はそこで友人と談笑したり、一緒に勉強したりしている。教員は研究室に行く際に、学生の様子を自然と知ることができるし、学生の学びに参加することも容易にできる。図書館を含めた大学全体の学びの空間をどのように創造し、学生の学修をどう支援していくべきか検討する必要があると思われる。

大学図書館の役割

図書館副館長 松田 浩平

大学や短期大学での学びは、基本的に自学自修の場である。その中で、大学図書館は、大学における学生の学習や大学が行う高等教育及び学術研究活動全般を支える重要な学術情報基盤の役割を有しており、大学の教育研究にとって不可欠な中核を成し、総合的な機能を担う機関の一つであるとされている（文部科学省 研究振興局情報課学術基盤整備室 平成22年3月）。従前から図書館とは書籍の閲覧や貸し出しに目が行きがちであるが、研究機関でもある大学の図書館では、それだけではなく次のような機能が求められる。それらは、研究活動に即した支援と知の生産への貢献、学習支援及び教育活動への直接の関与、収蔵すべき資料の構築と適切な運用、他機関・地域等との連携及び国際対応である。

このうち特に、データベースを利用した文献検索や論文の閲覧も重要性が増している。そのために本学図書館でも学術データベースを契約し運用して学内からの検索に寄与している。これらの学術情報の運用について中核を担うのが大学図書館の大きな役割でもある。

本学図書館の利用に当たっては、図書の閲覧や貸し出しや学習スペースとしての利用だけではなく、学術情報の検索にも大いに利用していただきたい。特に学術データベースは直接来館しなくても学内の情報端末からも検索が可能である。本学図書館を通じて、国際学術誌に掲載された最新の論文を閲覧することも可能である。ぜひ、本学図書館で最新の学術論文に触れていただければ幸いである。

教員の本棚から

総合文化学科 講師 佐藤 亜実

『あずかりやさん』 大山淳子 著 ポプラ社 2015.6 (913.6/オオ 1F 一般書架)

この文庫本を本屋で見、まず目を引いたのはカバーでした。駄菓子屋でもらえる紙袋のような薄い茶色地に、桃、青、緑、黄と色とりどりの正方形が互い違いに並んで、お祭りのヨーヨーのような色合いです。なんとなく懐かしい気持ちになり、本を手に取りました。

本の説明を見てみると、この本は栃木県の本屋さんの口コミや宣伝がきっかけで、全国の本屋さんでも売り上げが増えたとのこと。地方の本屋さんが店を挙げて売り出して、それが全国に広がるなんて、いったいどんな魅力がある本なのだろうかと…中身も気になって、読むことにしました。

この本の主人公は、タイトルの通り「あずかりやさん」です。商店街の一角にある「あずかりや・さとう」では、一日100円の料金で、預かってもらいたいものを預けることができます。何でも預けられるので、封筒、鞆、タイプライター、自転車、猫など、様々なものが出てきます。全部で7章ありますが、すべて違う「もの」や「人」の目線で描かれています。店の暖簾や、預けられた自転車など、語り手それぞれの口調や性格が違って、楽しく読むことができます。読み進めていくごとに、「あずかりや・さとう」と、その店主である青年の事情や経歴がだんだんとわかってきます。

夢中で読んだ後には、温かいお茶を飲んだときのようなほっとした気持ちが残りました。本には「人情物語」との説明が書かれていますが、人だけでなく、物とのつながりも丁寧に描いている、温かい雰囲気の話です。小さい頃、おもちゃや本が話したら…と考えたことを懐かしく思い出しました。落ち着きたいときやのんびりしたいときに、ぜひ読んでみてください。



図書館学生アルバイトの「私のおすすめ本」

齋藤 優花 (子ども教育学科3年)

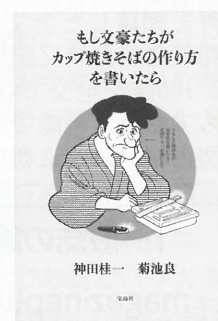
『もし文豪たちがカップ焼きそばの作り方を書いたら』

神田桂一／菊池良 著 宝島社 2017.6 (914.6/カン 1F 一般書架)

私もインパクトのある題名に目をひかれ、本を手にとった一人です。内容は驚くほどシンプルで、カップ焼きそばの作り方、すなわちお湯をいれて3分待つ湯切りし、ソースを混ぜて完成させるまでのことを書いただけと言われればそれだけの本なのです。しかし、これを文豪や著名人、雑誌風など、100通りの文体で書かれたものが収録されています。読めばきっとこの本の面白さが分かります。

この本は真面目に順番に読まなくても、目次から気になるページを開いて読むことでも楽しめるので、普段読書をしない方にもおすすめです。名前の知らない文豪であっても、読んでみると、文章のテンポ、言葉の選択の仕方、擬音語の使い方など、この文豪はこんなふうに文章を書くのかという新しい発見もあり、少しつつきにくい古典・近代作家や海外の作家が身近に感じられてきます。知っている文豪であれば、この文体見たことあるな、と共感できる部分もあるかと思います。

カップ焼きそばへの見方がこの1冊でとても面白くなります。ぜひ、手に取ってみてください。



近藤 実紗 (総合文化学科1年)

『羊と鋼の森』 宮下奈都 著 文藝春秋 2015.9 (913.6/ミヤ 1F 一般書架)

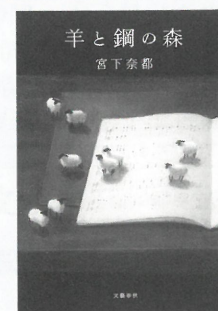
映画化され話題になり、タイトルを聞いたことがある人も多いと思います。

この本は外村直樹という少年がたまたま出会ったピアノ調律師の板鳥宗一郎が行った調律に魅せられ、調律師を目指し、切磋琢磨するというストーリーになっています。

私も映画化されたことで気になり、読んでみました。タイトルも何故、音楽を扱った事なのに…? と思いましたが、読んでいくうちに納得できました。読んだ人こそ分かるタイトルというのも面白いと思いました。

文章表現が美しく独特で、ピアノや音を表すのに“森”という言葉がよく使われています。主人公の生い立ちと関係しており、森は主人公にとって、生まれた時から近くにあるけど全容を掴めていない不思議なもの。それがピアノと重なり美しく表現されて、どんどん引き込まれていきます。

とてもオススメです。ぜひ、読んでみてください。



上記の図書は図書館で所蔵しています。ぜひご利用ください。

平成29年度 図書館報告

(東北文教大学・東北文教大学短期大学部)

資料の構成

(平成30年3月31日現在)

1. 図 書	蔵書数	1 2 4, 2 4 9 冊
	年間受入冊数	9 0 2 冊
2. 雑 誌	所蔵学術雑誌種数	2 5 0 種 (和 2 0 6 種, 洋 4 4 種)
	年間受入雑誌種数	1 5 0 種 (和 1 4 1 種, 洋 9 種)
3. その他	新聞	1 7 種 (和 1 4 種, 洋 3 種)
	視聴覚資料	所蔵数 1, 1 7 7 点
	データベース	Academic Search Elite, PsycINFO, 聞蔵, 河北新報データベース, magazineplus, CiNii Articles

利用状況

年間入館者数	39, 476人
学外者の年間入館者数	601人
年間館外貸出冊数	4, 415冊
開館日数	257日



データベースを利用しよう ― 文献を入手するために ―

図書館では各種データベースを提供しています。データベースの種類によって、得られる情報は様々。うまく使いこなして、レポート・課題・卒研に必要な文献を入手しましょう。わからないことは何でも図書館員へお尋ねください。

「ここの図書館に所蔵しているのかな？」

→ 本学蔵書検索システムを使う。

蔵書検索システム (OPAC: オーパック) を利用。書名、著者名、雑誌タイトル名等を入力し検索。図書館HPから利用できます。

「論文を探したい・読みたい。」

→ CiNii Articles

(サイニアーティクルズ) を使う。

学会・協会刊行物、大学研究紀要などの学術論文情報を検索する論文データベース・サービスです。簡単に目的の論文を検索し、論文本文に到達できます。図書館HPから利用できます。

「外国雑誌の論文を探したい・読みたい。」

→ Academic Search Elite

(アカデミックサーチエリート) を使う。

エブスコ社が提供する、外国雑誌オンラインデータベース。人文、社会、自然、医療、理工等、総合分野を網羅した全文データベースです。約3,700誌に掲載された論文記事の抄録情報を収録、そのうち約2,100誌を全文で収録しています。学内有線PCからアクセス可能です。図書館HPから利用できます。

「新聞記事を探したい。」

→ 聞蔵 (きくぞう) を使う。

1984年以降の朝日新聞記事データベース。朝日新聞・アエラ・週刊朝日、知恵蔵の記事を検索。図書館1階Windowsから利用できます。

→ 河北新報データベースを使う。

1991年8月以降の河北新報掲載記事、1897年以降の地震、津波被害の記事等を収録。図書館1階Windowsから利用できます。

→ 山形新聞データベースを使う。

1999年12月～昨日までの山形新聞に掲載された記事を収録。利用時は図書館カウンターに申し出てください。※DVD版「月間やましん」も毎月購入しています。1枚に1ヶ月分が完全収録された電子縮刷版です。本学では2005年以降を所蔵。利用の際は図書館カウンターへ申し出てください。

※朝日新聞・河北新報・山形新聞他図書館で購入している新聞 (17紙) は、昨年および今年に発行された原本を保管しています。

「一般誌の論文・記事も探したい。」

→ magazineplus

(マガジンプラス) を使う。

国立国会図書館の「雑誌記事索引」を収録するほか、学会年報・論文集や一般誌、地方誌などの情報を多数追加。雑誌32,000誌+図書13,000冊の、論文・記事約1,800万件の情報を収録。図書館1階・2階Windowsから利用できます。

「論文・記事の情報は入手できたが、本文が公開されていなかった。」

→ その論文・記事を所蔵している学外の機関から複写物を取り寄せることができます。

図書館カウンターに申し込んでください。(複写料金、送料等がかかります。)